

## 「潮騒」と大阪 IR カジノ

大阪日日新聞 1 面下に掲載の「潮騒」を愛読している。とりわけ日曜日の「潮騒」はタイムリーな話題に鋭く切り込んでいる。3 月 12 日、19 日、26 日は大阪 IR カジノを取り上げている。12 日と 19 日は後半だけ、26 日は全文を紹介したい。

大阪 IR の誘致先は大阪湾の人工島・夢洲で、地盤沈下が続く上、地震時の液状化も予測されている。事業期間は 2029 年秋頃から 35 年間。一方で、政府が公表している 30 年以内に南海トラフ巨大地震が発生する確率は 70~80%◆事業期間中に高確率で巨大地震が発生するにもかかわらず、大阪 IR では軟弱地盤に高層ホテルの建設が計画されている。府・市は「世界最高水準の IR」を掲げるが、現時点の安全対策は落第点と言わざるを得ない。

府・市がモデルとするシンガポールの依存症対策は「できる限り自国民はカジノに行かせない」ことが根幹で、オンラインカジノは国として遮断している。日本では国内サイトは取り締まるが、海外のサイトについては法規制がない◆パチンコから競馬、競馬からオンライン競馬、さらにオンラインカジノへと対象が推移する人がいる。理由は手軽さと短時間で動く金額の大きさと「最も時間効率がいい」のがオンラインギャンブルだということ◆オンラインギャンブルの規制がないに等しい状態で、IR を誘致すればどうなるのか。税収や納付金で誘致自治体が豊かになるというが、若者の依存症増加と引き換えの豊かさを、誰が望むのか。

大阪府知事選が 23 日スタートし、26 日に大阪市長選、31 日に大阪府議選・大阪市議選が告示される。争点の一つはカジノを含む統合型リゾート施設(IR)の大阪誘致の是非だ◆知事選では大阪維新の会の候補者が IR 推進を鮮明にし、非維新の候補者は中止や住民投票を求めている。府議会、市議会では昨年 3 月に事業計画を議決しているが、昨秋と言われた国の認可はいまだに下りていない◆誘致先の夢洲の地盤の問題などで審査が長引いているというが、懸念事項として他にギャンブル依存症の問題、経済効果の実現性、環境問題などが挙げられている◆誘致を進める大阪府・市が説明している部分もあるが、メリットに比べてリスクの開示が不十分と言わざるを得ない。昨年、市民団体が IR 誘致の是非を問う住民投票の実施を求めて、法定数を大きく上回る署名を集めた。府議会に提出された条例案は否決されたが、背景には IR の内容が十分に知らされていないという住民の不満がある◆人口減少、教育・子育て、防災減災など直面する社会課題は多いが、人的資源や公金投入の大きさから言って IR も大阪の将来を左右する大問題。選挙戦でメリット、デメリットを明確にし、住民が可否を判断できるようにしてほしい。

(2023 年 3 月 28 日)